

乳がん高リスク女性への検診と治療

現在の日本の乳がん検診は、発見率と費用対効果の関係から隔年で実施されていますが、乳がんによる死亡率を低下させるには乳がん検診による早期発見がもっとも重要です。前述の様に様々乳がんの罹患リスクを上昇させる要因が知られており、乳がん罹患のリスクが高い女性には 1 年 1 回程度の乳がん検診を施行すべきと思われます。その場合に、視触診による検診の有用性は低いことが予想されるので、マンモグラフィーや超音波などを併用するほうがよいと思われます。さらに乳腺MRI 検査も行ったほうがいいのかもかもしれません。これらのリスクの高い女性では通常の乳がんよりも罹患する年齢が低いことから、20 歳あるいは 30 歳からの検診が必要と思われます。（通常の検診は 40 歳から）

乳がんの 1 次予防（発がんの予防）には、Tamoxifen や Raloxifene などによる化学予防が挙げられます。罹患リスクの高い女性には投与を考慮すべきかもしれません。また、欧米ではこれらのリスクの高い女性に予防的乳房切除と再検を行い、乳がんの発生が 90%抑制されることが報告されています。